

○委員長

ただいまから、第2回静岡県社会教育委員会を開催いたします。

第1回では、皆さんからいろいろ活発な意見をいただきましたこと、本当によかったと思っております。本日も、いろいろな角度から御質問、御意見を出していただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、本日の会の次第について確認をします。最初に、令和7年度の社会教育関係団体への補助金の交付について、意見を伺います。続いて、事務局から第1回社会教育委員会の開催結果を報告します。その後、協議に入りまして、第1回で皆さんからいただいた御意見を確認し、本委員会としての社会教育人材の捉え方を共有・整理したいと思います。次に、現在の地域における社会教育人材の現状や課題等を把握するための調査について、御意見をいただければと思います。

皆様の御協力の下に、円滑に会を進行していきたいと思っております。よろしく願いいたします。

初めに、令和7年度社会教育関係団体への補助金の交付について、委員の皆さんの意見を伺いたいと思っております。こちらは法律上、この委員会の役割となります。その辺りも含めて、事務局より説明をお願いします。

○事務局

別紙資料を御覧ください。令和7年度社会教育関係団体に対する補助金の交付について案となっているものがあるかと思っております。そちらの上段を御覧ください。補助金に関して、委員の皆様から御意見をいただくことが法令によって示されております。ここでは、その根拠を具体的に説明いたします。

まず、憲法89条には、記載のとおり、公の支配に属しない教育に対して交付金を支出してはならないとあります。次に、社会教育法第13条では、国又は地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、地方公共団体にあつては、教育委員会が社会教育委員の会議の意見を聞いて行わなければならないと定められております。つまり、社会教育振興のためには補助金を支出することができ、そのためには、本委員会により、社会教育委員である皆様の御意見をお伺いする必要があります。では、法令の範囲内で、補助対象事業とはどのようなものなのかというと、昭和34年社会教育審議会答申、社会教育関係団体の助成についての中で、

「ア」から「ク」の8つの事業が挙げられております。委員の皆様には、各団体の事業内容が「ア」から「ク」に該当していることを御確認いただきたいと思っております。事業内容や補助金の執行状況などについては、関係各課で詳細を確認しております。

次に、資料の表について説明いたします。次年度予定している社会教育関係団体への補助金について、担当課ごとに表にまとめてあり、表の左側から順に、団体名、代表者名、所在地、設立年月日、会員数を載せております。次に補助対象事業の概要、令和6年度の補助金、令和7年度の補助金交付予定額が記載されております。金額はあくまで案ですので、まだ確定したものではございません。今後、議会での承認を経て確定となります。なお、スポーツ関係団体の補助金交付については、スポーツ基本法により、スポーツ推進審議会等で意見を伺うことになっておりますので、社会教育に関する補助金ではありますが、本日の委員会では省略をいたします。

それでは、資料を見ていただく時間を取り、その後で御意見や御質問をお願いいたします。また、そちらの資料についてはお持ち帰りいただけますが、この場限りの資料であることを御承知おきください。よろしくお願いたします。

○委員長

それでは、10分程度、資料を確認いただく時間を取りますので、よろしくお願いたします。10分後に、私から質問、意見を伺います。関連資料が部屋の向こう側にあるので、席を立って、そちらを確認しに行ってください構いません。

(資料 確認中)

○委員長

10分たちましたので、御質問、御意見をいただければと思います。質問、御意見ある方から挙手していただければと思いますが、いかがでしょうか。

○委員

資料等も見させていただきまして、事務局のおっしゃるとおりに、金銭的な部分については、しっかりとやられていることはよく分かったんですけど、今後の社会教育団体の働き方、活動の成果をどうやって見ていくか、そろそろ考え始めたほうがいいんじゃないかと思っております。私たち民間で研修等をやったときに、どれどれこういう内容の研修をやりました、何人出席しましたで

終わることはできないです。何人出席をして、このような内容で、行動変容が起きたであるとか、研修等の成果までしっかりと追跡することによって、初めて役割を終えたという考え方をします。

ですので、今回も、社会教育団体のそれぞれの団体さんが、それぞれの目的に対していろんな研修会をやったり、啓発活動をやったり、やりましたということは伝わってくるのですが、それによって、会員さんたちが、どのような意識の向上が認められたか、どのような学習効果があったか、地域の人たちにどのようなことを知らしめることができたかという、成果を可視化する部分の報告があってもいいのではないかなと思いました。

例えば、アンケート内容で、事前と事後のアンケート内容を取ることによって、どれぐらいの数値的な変化があったであるとか、例えば、研修会等に参加した人のコメントの中で幾つかピックアップをして記載していただくであるとか、主催者側がどのような現代的課題に対して、やり方を変えていっているかであるとか、そういう部分も見ていけると、今後、よりよい社会教育活動につながるのではないかと。社会教育団体は、つい前年踏襲のような部分も、今もどうしても出てしまうところもありますので、教育は、もちろん不易と流行と言いますように変わらないことも大事ですけど、現代的課題に合わせていくこととか、やり方を変えていくことも大事なので、その辺りも分かるような成果、報告もあってもいいのではないかと提案ということで受け止めていただければと思います。

○委員長

特に、ここで答えは別にいいですね。

○委員

今後の方向としてお願いしたいと思います。

○委員

8団体に合わせて864万円ですけど、この8団体というのは6年度と一緒にです。総額は、6年度は幾らでしたか。というのは、この8団体のほか、補助を打ち切った団体があるのかないのかを教えてくださいたいです。

○事務局

昨年度から打ち切った団体はありません。

○委員

先程の委員の提案に関しまして、実は私どものところも、静岡県社会教育委員連絡協議会ですが県から補助金を頂いております。いただいた補助金がどういうふうに使われて、成果はどうか、そういうところが数値化、見える化によって書ければ一番いいのですけれど、なかなか社会教育は数値で表せないところがありまして。例えば、研修会とか講習会をやればそれでいいかとなるんですけど、当然、研修会とかをやった後はアンケートをさせていただいております。アンケートの中に、よかったかどうか、こういう内容が良かったということはあるんですけど、すぐに成果は出ないものですから、今後、自分たちの市町ではどんなことを反映していきたいとか、そういうところを書くようにさせていただいております。それが、実際にそこでやってみて、成果が出たかどうか、すぐには結果としては現れず、本当の成果が出てくるのは数年先か、もしかしたらもう少し先になるかもしれません。そんな形でやらせていただいております。

2点ほど質問があります。去年も質問させていただいたんですけど、いただいている補助金の補助率は、私どもは50%です。例えば、今、45万円頂いているものですから、事業としては100万円近い事業をやって、45万円の補助になるんですけど、ここで補助している交付金の対象の団体は、補助率は50%なのかどうかを1点お聞きしたいです。あと、それぞれの補助金をいただいた団体様の執行率、全部100%補助金を使っているかどうか。もしかしたら予定した活動ができなくて、補助金をお返ししているような団体もあるのかどうかをお聞きしたいと思います。

○教育政策課

市町人権教育連絡協議会様に、令和6年度、7年度と、81万円ずつの補助をしており、補助率は80%程度です。

○スポーツ文化観光部文化政策課

当課では、静岡県文化協会様に補助金を支出しております。補助率は2分の1以内で、事業費の2分の1を下回る形になっています。

○スポーツ文化観光部文化財課

当課では、静岡県文化財保存協会様に補助金を支出しております。当課でも事業費の2分の1以内で支出しております。

○社会教育課

社会教育課では、社会教育課の資料にある社会教育課の静岡県社会教育委員連絡協議会、静岡県PTA連絡協議会、静岡県公立高等学校PTA連合会。あと、静岡県博物館協会に補助金を交付しております。補助率は全団体とも同じ交付要綱を使っておりますので、2分の1以内となっております。全団体さん、執行率100%以上なので、事業費全体から見れば50%を下回る形にはなっておりますけれど、2分の1以内で補助をさせていただいているところでございます。

もう1つ。社会教育課の青少年団体連絡協議会も2分の1以内の補助をしていますので、御報告させていただきます。

○委員長

執行率は、どう答えたらいいですか。

○委員

例えば、予算50万円つけていただいて、50万円全部使い切ったのか、それとも50万円いただく予定だったけど、30万で終わったとか、そんなところがあったのかどうか。

○委員長

返してるという団体を受け持つ課がありましたら。

○社会教育課

青年団は、少し返ってきています。

多分、この中だと青年団だけ、若干返金をされているかと思います。金額は、今はわかりません。

○委員長

そのほか、ありますでしょうか。

○委員

今、青少年団体のことが出たものですから、引き続き質問したいと思います。会員数を見ると35人としか書かれておらず、そもそも青少年団体は、実際どのように活動しているか。今、地域

での存在がどのような感じなのか、よく分からないという会話を委員としたところです。補助対象事業の概要を見ると、それぞれ各団体へ、加盟団体を通じていろいろと取組をしているとあるので、加盟団体や取組内容等の資料もあると、よりいいのではないかと感じたので、次回から入れていただくといいと思いました。

○委員

静岡県青年団連絡協議会は返金されているという話ですけれど、それでも同じ額を予算では計上すると理解してよろしいでしょうか。

○社会教育課長

青年団の連絡協議会は、毎年、この会合で話題になっていて、会員数が年々減少しているのは事実です。ただ、青年団連絡協議会は、昭和30年代ぐらいには本当に活動の場が広く、青年の船の運営とか、様々なことをされていた時代があります。その歴史の中で、今まさに、会員数が減ってきてしまって、存亡の危機の段階にあるところです。ほかの団体の会員数と比べて、会員数比でかなり高い金額になってしまっているのですが、青年団の今までの活動の意義を考えると、やはり県として、まさに今、危機なので支えてあげたいとして、引き続き県が支えていく姿勢を示す上で同額での補助を実施したいと考えております。

○委員

県高P連ですけど、金額がどうこうではなく、先日、県P連は全P連脱会だったり、少子化に伴って会員数もどんどん減ってくる中、なかなか同額だけでやっていけるのかなと、ちょっと心配をしたんです。多分頑張って、今までと同じような形を、中身を濃くし、いろいろ工夫をしながらやっていただいているとは思いますが、会員数が減っているのに、補助がずっと同じでやっていけるのだろうか、ただただ心配しただけです。

○委員

県P連でいつもお世話になっているのですが、子供たちが年々減少するとともに、PTAに加入しない保護者が増えております。その中で、PTA会費を納めない保護者が増えている中で、今までと同質の一定活動を維持するために、同額が、各学校、苦しくなってくるのではないかなと私も心配をしております。

○委員

私は高校のほうですが、やはりPTAに入らないという申し出をする保護者も、ちらほらあります。小中学校で増えているとなると、きっと高校も増えていくだろうと予想されるので、やはり危機的な状況だと思います。ただ、PTAの研修会も今年度参加したりしたのですが、PTAになった方々は本当に熱心に研修をしていただいたり、子供を育てる上でためになるような講演会を各地区で開いたり、非常に有意義に使われている実感はありますので、これは大変、ありがたいと思っております。

○委員

そういう厳しい中で、皆さん、いろいろ活動されていると思います。青年団連絡協議会の話に戻って恐縮ですが、穏やかにランディングさせていく、将来のことが見えている、これから35人が350人に増えていくことは非常に考えづらい団体の補助をしていくということなので、何年計画で、どういう形で上手にランディングさせていく計画か、もしあるようでしたら、紙面上でなくてもいいので、事前に教えていただければと思います。あと、将来、PTA連絡協議会、PTAという団体そのもの自体が、時代の流れで縮小化は避けられないこともありますので、補助金で支えていくのも大事ですが、社会団体それぞれそうですけれど、各団体自身がどのような努力でそこを持ちこたえていくか、その辺りも建設的に考えることを促すような支え方もあると思います。

いずれにしても、県の税金も爆上がりは期待できないというか、減っていくのは目に見えているので、少子化とか人口減少に対して、少しずつ心構えをしなければいけないのは、皆さん、共通の認識だと思います。上手にその辺りの知恵を出し合って、全く同質の活動を続けていくのがよいのか、低予算の中で、何とか質の高いことをできるほかの方法はないのか。例えば、同様な団体であるのならば、共同で何かできることはないか。やはり、知恵を出し合う時代が目の前に来ているということは、社会教育委員の中では共有しておいたほうがいいと思いましたので、発言させていただきました。

○委員

県の予算的に、この補助金はどれくらいの割合を占めているのでしょうか。圧迫しているとか、そういう状況にあるのでしょうか。

○社会教育課課長代理

全体の予算でいくと、ちょっと分かりづらい面はあるんですけど、県全体が、新聞紙上をにぎわしてるとおり、600億の予算が不足しているということです。全体の予算が、全部で削減傾向にあるのはまさにそういったことで、いろんな県の予算が、今はひっ迫して厳しい状況です。社会教育課全体の予算の中で、社会教育課だけの予算の補助で申しますと、その中でいろんなところを節約しながら、社会教育団体とか、こういったところの団体を支援することで、同額程度の額を確保しているところです。そうはいつでも、全体的にシーリング等がかかっておりますので、全体が厳しい状況でやりくりしている状況です。

○社会教育課長

補足というか。どのぐらいというのが、県の中で言えば、県の予算額はすごく大きいので、その中から言えば割合としてすごく小さいです。社会教育課が持っている予算がそんなに大きくなって、市町補助として、市町がやる地域学校協働活動での補助金が4・5千万あって、それ以外として、青少年の家の維持管理費は何千万というお金があるんですけど、それ以外はほとんど細かな予算しかない状況です。なかなか区別を言いづらいですけど、1団体が90万とか45万という金額は、社会教育課の事業規模からすると、それなりの大きさはあるかと。先程シーリングの話をしましたけれど、毎年、すごく厳しいシーリングがかかって、事業は何割か削らなくてはいけないけれど、この補助的な事業については同額がこの数年維持されています。ということで、この補助事業だから維持できる側面がある。本来であれば、これをもっと必要としているところに厚くしたりとか、会員数が減ってきたところは薄くしたりをやるべきなのかもしれませんが、ここに手をつけると大きく減ってしまう可能性があるんで、なかなか手をつけづらいのも実情としてはあります。昔の活動の実態があって、きっとこのへんがあるのかもしれませんが、それがずっと引き継いでしまっている実情があるのは正直なところかと思えます。

○委員

この補助金は、あくまで予定ということですよね。令和7年度はこれから申請されるはずですから。

○社会教育課長

そうです。申請、内示をする金額がこの金額になると思います。この予算自体が、まだ2月議会

で議案の段階ですので、2月議会で成立しないことには、予算が成立しない。予算が成立したら、これで内示をして、交付申請が上がってくれば、その金額で執行するという流れになります。

○委員

資料ですが、この団体が何をやっているか、実際に何の行事をやっているとか、どんなことを主にやっているかという概要は書かれています、具体的に何をやっているかというのが分かると、そうかと思えました。また、資料を御用意していただいたんですけど、この10分の間で、それがどこに書いてあるかを探すのが大変かと思えました。ちょっと書いてあると分かりやすいかなど。ここにいる委員が全員、あの資料の見方を理解しているとも思えないので、ここを見ればすぐ分かるか、この団体はこの事業をメインにやっているのが分かると、この場で議論しやすいと思えました。

○委員

文字どおり当事者ですので話すつもりはなかったのですが、いろいろ話題が出ましたので、決して意見というわけではなくて、現状の説明だけさせていただきます。私ども静岡県PTA連絡協議会は、先般、報道もされましたように2月12日に開催された臨時総会におきまして、満場一致で公益社団法人日本PTA全国協議会を退会する決議をいたしました。詳しいことは、静岡県PTA連絡協議会のホームページに全て載せてありますので、そちらを御覧いただければと思います。簡単に言えば、不正経理で元役員が逮捕されたにもかかわらず、全く真相究明しようとしません。そういった団体に、本年も年間240万円を日本PTAに会費として支払いましたが、その5年分のお金を着服した容疑で逮捕された役員がいるにもかかわらず、全く何もしないということで、昨年7月以降、議論を重ねまして、今回退会という決議をすることになりました。

ところで、児童・生徒の数が毎年自然減で5,000人以上減っていく時代ですので、県P連の財政自体は、たいへん厳しい状況にあります。そこで、県P連としては、運営方法の見直しを図り、経費節減に努めております。何とか自助努力を続けながら、活動を継続していきたいと考えております。ただ、コストカットだけを行っているわけではなくて、それと並行する形で県P連としての活動の充実も図っております。実際に、現在は、ホームページを随時更新して、情報発信に努めております。また今年も、県に対しても、保護者の皆さんの声を直接伝えたいということで、いろんな取組を続けているところです。最初に述べましたように補助金に関しての意見は控えますが、本日、委員の皆様からPTA活動について、大変、御理解のある意見を頂戴いたしまして、本当に心強く、

ありがたいと感じておりますので、そのことへの感謝とともに、現状の御報告だけ申し上げます。

県P連としては、この先も児童・生徒数の減少が続いていきますので、今後も活動のあり方を見直しつつ、さらに県P連が、県内のさまざま地区をつないで県に声を届ける唯一の組織だということをしっかりアピールしながら、皆さまに御理解を求めていくつもりでおりますので、引き続き、よろしく願いいたします。

○委員長

次の協議もあるので、そろそろよろしいでしょうか。私のほうから。同額の補助ですが、物価高とかいろいろなことを考えると、この補助金の額の占める役割が、団体に対して手厚いのか、手薄なのか、全然違うわけですね。課長さんがおっしゃったことはよく分かるのですが、同額提示よりは、検討の結果が成果として出たほうが、社会教育課としても、事業をしっかり見据えての補助金の出し方だろうということが逆に見えてくるのではないのか。物価スライドに合わせて上げれば、同じ補助の意欲であるとか、それが下がってれば、自助努力を促しているとか、そういうところが見えてくる。この御時世で同額というと、その意味が何であるか、読み取りづらいと正直感じました。

皆さん、いろいろ活発な意見をありがとうございました。御意見はいろいろあったとは思いますが、この交付案について、御了解は頂いたということでもよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございました。この件については、以上とさせていただきます。

先ほど、事務局からありましたが、これは案の段階のもので、公にはなっていないものです。資料については、取扱注意でよろしく願いしたいと思います。それでは、次に移りたいと思います。

第1回社会教育委員会の開催結果について、事務局から報告をお願いします。

○事務局

お手元の資料1を御覧ください。第1回社会教育委員会では、自己紹介、委員長・副委員長の選出。その後、社会教育課長から、今期諮問題「つながる主体・つながる学び、社会教育人材の果たす役割」について説明がありました。また、2年間にわたる全12回の委員会のスケジュールについても説明をいたしました。その後、県の教育方針である「有徳の人」づくり大綱や教育振興基本計画を用いて、県の教育行政の方向性と県社会教育課の事業について説明いたしました。次に、第

38期社会教育委員会の報告書について、委員長、担当した委員から説明がありました。

その後の協議では、今期の諮問題に関わる具体的な社会教育委員会の人材について、具体的なイメージを、現在の活動内容等を含めて、各委員から御意見をいただきました。皆様の御意見は資料2に整理いたしました。後ほど、この資料を使って説明もさせていただきます。

○委員長

今、報告があった部分の大部分は、この後、協議のところで使いますので、早速、あと1時間弱の協議となってしまいましたので、協議事項に移らせていただきますが、よろしいでしょうか。

それでは、協議の(1)本委員会として捉える多様な地域人材の整理について。第1回委員会の概要資料をもとに、まとめていきたいと思えます。それでは、事務局から説明をお願いしたいと思います。

○事務局

それでは、資料2を御覧ください。第1回の委員会で出された皆様からの御意見を資料に整理いたしました。協議の前に、まず諮問題等で示された社会教育人材について確認させていただきます。第38期の報告では、様々な主体とのつながりを意識した学びの機会創出が社会教育の方向性として示され、つなぎ役となる人材の育成や活用が重要であると、このような意見が出されました。また、国の教育振興基本計画や中教審においても、社会教育人材の養成、活用機会の充実、さらには、社会教育人材に大きな役割を期待すると示されております。こうした流れから、今期の諮問題につながっております。

次に、社会教育人材の活用を考えた場合、幅広い社会教育人材をどのように考えていくかですが、国の捉え方、こちらは社会教育主事、社会教育士を主とした人材であり、一方、本県教育委員会の捉え方としては、地域を支えている様々な人材とすることといたしました。そこで、幅広い社会教育人材の中で、地域を支えている方々をどう考えていくかが必要であることから、第1回で、皆様に具体的な社会教育人材を挙げていただきました。挙げられた人材を整理したものが、前半部分になります。

ページめくっていただきますと、裏の最後に必要と考える人材で、特定の人材ではないですけれど、「こういう人たち」という概念的な御意見について、ここでまとめさせていただきます。

○委員長

資料2の具体的な社会教育人材と必要と考える人材は、第1回の皆さんの御意見をこの二くくりで議事録から取り出して、事務局でまとめていただいたものです。今、説明があったように、この委員会では、社会教育主事とか社会教育士と限定せずに、人材を幅広く捉えていきたいと考えているわけです。こういう中で、皆さん、第1回を振り返られてみて、注目すべき人材、必要とされる人材は、抽象的な部分もあるわけですが、具体的なところから、ここの人材はという特定のものをもっとプッシュしたほうがいいのではないかなど、いろんなお考えあると思いますけれど、その辺について、今日は共有できたらと思うのですが、いかがでしょうか。抽象的な質問で申し訳ないです。

○委員

どういった人材が必要かということは、結局、どういう場で、何をするかに関わってきます。つまり、この場でこういうことをするから、こういう人材が必要だということになるように思います。一般論として社会教育人材というと、今、挙がっているような方々は当然推定できると思いますが、県の2年間の計画の中で、どういう場で、これは1つの場である必要は全くなく、もっと広い場でもいいですし、どういった場でどういった活動をするのかによって、どういう人材が求められるのかが変わってくるように思います。例えば、それこそ社会教育士が不足しているからそのなり手になる人材を育成するというのも重要ですが、各地域でいろんな活動において、例えば、コミュニティの中で活動するとか、学校の中で活動するとか、そういった活動の場が何をもち設定されるかで、求められる人材が変わってくるのかなと思うものですから、その辺りをどういうふうにお考えなのか、お聞かせいただくとありがたいかなと思います。

○委員長

私のイメージとしては、その場の設定もこの中でしていいのではないかな。社会教育、いろんな場があるので、学校と協働する場なら、こういう人は欠かせないでしょうとか。社会教育施設が連携するのであれば、こういう人がもっといたほうがいいですとか。あるいは、一般の大人の方の学びでは抽象的ですね。家庭教育に関する学びをもっと強化したいなら、こういう方をもっと養成したらどうか。ICT活用とか情報モラルをみんなが考えないといけないなら、こういう人は必要でしょうとか。多分、そこの場の設定も任されていると考えています。そんな中でも場で分けるかという問題もあるし。その場を限定して、ここを今の世の中では押すべきだということも、委員会で、必ずこの人材を必要ととってもいいと思うので。

○事務局

この諮問問題を検討した段階では、学びの場をどこか1つに限定して考えてはいませんでした。今、委員長からもお話がありましたけれど、様々な場の中で、どのような社会教育人材が、その場の学びを活性化できるのかを協議していただければなという思いで、この諮問内容にさせていただきました。特にその場の設定はなく、委員の皆様の中で、1つの場を設定していただくのもよろしいかと思えますし、様々な場に応じた社会教育人材の方がいらっしゃると思えますけれど、その共通点というか、第1回目のときにお話があったような、こんな方だったら、専門性を生かす事ができる。共通の資質として、こんな方が社会教育人材になり得るのではないかというお話をいただいてもいいのかなと思っておりました。そちらに関しては、学びの場は特に限定せずに、御協議の中で、どこか1つに焦点を当てて、協議をしていただいてもいいのかなと考えておりました。

○委員

そうなりますと、私も特に何か限定しろということではないですけども、話の取っかかりとして、どこかに少し焦点を絞ってもいいのかなとか思います。もちろん、そこだけに絞るという趣旨では全くありません。逆に、私が質問するのもおかしな話かもしれませんが、例えば各地域や市町でどういった分野で社会教育人材が不足して困っているとか、そういう実情を教えていただくと議論がしやすいかと思えます。

○委員

今の委員の御質問、回答になるかどうか分かりませんが、我々もいろいろと、長年の社会教育活動をやってきておまして、その中で、今、この社会教育人材を考えた場合に、何が課題なのかと思えますと、第1回目のときに、皆さん、具体的な社会教育人材ってどういう人がいるかという、委員がおっしゃったように、学びの機会から出た結果で、こういう人がいると気づく。例えば、議員さんとか学校支援者とかがいて、このような人が社会教育人材じゃないかな。こういう形でまとめてくれたのが社会教育人材を見させていただきますと、社会教育は学校教育以外が範囲のものでありますから、学びの場から見ると、すごい範囲が広がってきますし、それは多様な今のニーズに対応するためには、そういう見方をしていけないと思えず、そのためにどうするのかというところを、これから我々が考えていくのかなと思えます。そんな中で、先ほどの委員の質問で、今、我々が社会教育活動をやって、どんなことが課題かという、様々な形で、様々な人

がいろいろと社会教育活動をやってくれております。でも、それはあくまでもどっちかという点の形で活動してくれていて、そこは、私たちもそういう形でやってくれているのを全て把握してるかという、把握はできていません。そういうところのつながりができてくるところが、これから必要かなと思っています。そういう形でいろんな方を取り込んで、社会教育活動をやっていくとなると、それをまとめる仕組みといろいろと情報交換し、意見交換するような場所も必要かなということでも考えました。

○委員長

実際、今、自分が仕事されてるときに、こんな人いてくれたらいいのにみたいな。そういうのでいいのですよね。

○委員

どういう人材がどういうところで不足してるのか、具体的な例があれば教えていただければありがたく存じます。

○委員

全体的に人材が不足していると感じます。それは、いろいろな人がいる中で、それぞれ価値観や考え方が出てきてしまったことも関係しているかなと。60代や70代、もう少し上の世代だったら、これをやろうと言えば、何となくみんながついてきたことが、これやりましょうと言っても、いやいや、私はやりたくないですとか、いや、あなたが勝手にやればというような、まとまりがないというか、1つのことをみんなでやるという風潮ではなくなってきてしまったことも関係していると思います。また先日、自分の市の社会教育委員長、副委員長と研修に参加しまして、そのとき、委員長と話をしていましたら、リーダーシップを取る人がいないね。やろうという人がいればやるといった話になりました。社会教育委員長や副委員長という立場の方ですら、動き出すことに躊躇される考えになっています。何かをしようとする方が少なくなっている。ただ、社会教育に携わる方を発掘し、育てていくのは、行政の仕事でもあるかと思います。しかし、土地柄とか市民性もありますので、正直うまくいかない部分があります。また、行政としても教育委員会の中で完結するのではなく、市長部局やまちづくりに関係する部署などにつながり、その市町全体で考えていけたらいいと思います。

○委員長

リアルな話をありがとうございます。こういうの、すごい参考になります。

○委員

金曜日の続きの話になるのかもしれないですけど、うちの地域もリーダーがたくさんいて、やりたいことを、やりたいときにやっている感じで。それをこの間、近隣の社会教育関係者と、何が違うのだろうねとか。あとは、地域で中学生ボランティアを募集したときに、近くの地域は募集をかけたらゼロだった。私が、かけると何十人も来る。30人とか40人とか、普通に来るのです。隣の地区のことで。その違いは何だろうかと話をしたとき、小学校のときに、どれだけつながっているかで違うんじゃないかという話になって。小学生のときにつながっていた子は、中学生になっても、知っている大人がいるところには行くんじゃないかという話になったのです。中学生になっても、いきなり知らない大人の案内文が来ても来ないけど、小学校のときにつながってる大人の名前があったら、この人を知っているとか、この人がやってることだとか。小学校のときに参加者側で行った人は来やすいし、ハードルも低いし。お父さん、お母さんにしても。

例えば、私の名前のお便りが出たら、多分みんな来る、普通に。私とともに活動しているメンバーたちが代表になっているものも、出したら、あそこの何君のお父さんがやってることだよねといって、親御さんは参加させる。そこの小中高の6・3・3年とか、もっと言うと幼稚園の頃からのつながりが、そこの違いを生むのではないかというところで。さっき委員が、点になってるとおっしゃったのですけれど、点と点をいかに線にしていくかというところが、すごく大事なのではないかなと思っています。

○委員長

小学校のときつながるといのは、その小学校の外の人というか。

地域の大人とつながる意味。

○委員

はい。小学生のときとか、幼稚園の頃からとか。親以外の大人とつながる。

例えば、お兄ちゃん、お姉ちゃんでもいいです。中学生でもいいし、高校生でもいいし。その姿を日常的に見ていて、僕もああんりたい、私も中学生になったら運営側に回りたいとか。そういったものを常に見ているか、全く見ていないかではイメージもつかない。幼稚園の頃から、なぜか小

学校のお兄ちゃん、お姉ちゃんの行事についていったら、僕もおまけで参加をさせてもらって、そこには必ず中学生がたくさんいて、大人たちがたくさんいて。小学生になったら、おまけじゃなくて、ちゃんと参加できるとか、小学生になって、それを体験して、中学生が運営側でやっていると、格好いい、大人と一緒に運営やってる、僕も中学生になったら、ああなりたいとか。ずっと小さい頃からの、地域だったり、大人とかとの関わりが、その後に大きく線になるか、点で終わってしまうかのところなのかなと少し感じたところがあります。

○委員長

いかがでしょうか。

○委員

今、委員の話聞いていて、つながるには、コーディネーター的な役割を果たす方がいると強いなというのは、すごく感じました。高校でも地域とつながりたいとか思い、管理職としていろいろな場に足を運んで名刺を交換したりして、つながることを意識しています。意外と話がまとまることもあったりして、ありがたいですが、コーディネーター的な役割をする人材が、つながるには本当に必要なのだと、今、お話を聞いていて思いました。

また、社会教育人材の育成についてですが、先日、磐田市の国際交流協会の方が来校されたのですが、「姉妹都市が50年、私たちも30年、40年この役割をやっていて後に続く人がいない」とおっしゃっていました。その後、確認したいことがあり、連絡を取る際に市の秘書課がその管轄で、事務局と書いてあったので、問い合わせることができました。

先程、委員が役所の役割かな、しんどいとおっしゃったのですが、役所の方が束ねてくださるといふか、事務局や窓口になっていただけると、学校側としても非常にありがたかったですし、協会の方たちも活動しやすい状況になっていると思います。やっぱり社会教育については、取りまとめという意味では、役所が非常に重要な役割を果たしてくださっている現状はあるなと思います。そういう核となるといふか、よりどころとなるところは必要だと感じます。

○委員

今、委員の意見を伺って、私も思ったことです。図書館も、ボランティアの団体さんとか個人の方が、多く活動してくださっていますが、静岡市の図書館が出来た当初から活動してくださっている方が、皆さん一緒にお年を重ねている。図書館とともに50年みたいに活動してくださってる方、

本当にすごくエネルギーを持っていらして、ずっと頑張ってきてくださいました。どの団体さんも後継者がおらず、「私たちもみんな80近くなってきて、そろそろ若い方にバトンタッチしたい」と。講座を開いたり、その団体さんの活動を紹介するようなことを、こちらも協力してやっても、そのときの参加者、お客様としては来てくれるのですけれど、そこから先に、一緒に活動まで深く関わろうという人が、皆さん、現役世代の方で忙しいので、難しいのだろうと思いますけれど、なかなかそういうところに飛び込んでくださる方がいないという話は聞いています。

一方、私たちも、いつも社会教育人材に限らず、市民協働という名前の下に、ボランティアとか、すごく聞こえの良いですけど、結局、お金をかけずに無料でやってくれる人を探すみたいになってしまっている面もある。本来でしたら、きちんと資格を持って、プロとして活動してくだされば、どんどん話が進んだり、もっと質の高いことができるけれど、このくらい、普通の人のボランティアを頼めばいいだろうという感じで、結果的に、なかなか質が高く、本気で向き合えない。皆さん、時間のあるときに、ちょっとやりますと思ってはくださっても、中心になってやろうという人が難しい。先ほど、コーディネーターが欲しいというお話もありましたけど、核となるところはきちんとしたプロの方。いっそ、それだけで生計を成り立たせるくらいプロの方が中心にいてくれると、皆さん、集いやすいと思いました。

○委員

今、委員もお話しいただきましたが、プロの存在ということで、前回の具体的な社会教育人材の中で、学校関係でボランティアをしていただいている方を除いて、やはり上に立つ者が専門性がある方、専門性や資格を持っている方たちが大きな役割を占めていることが多いかと思います。下のほうに行けば行くほど、意欲があれば、誰でもそうやって社会教育に関わっていただけてる方もいるかと思いますが、専門性がある方の育成というか、そちらも力を入れつつ、どの地区も、どの業種も後継者不足で悩まれているかと思います。専門性がなくても社会教育に携われる、後継者の育成の講座のような、気がついたら関わっていて、仲間に入った。社会教育に関わっていると意識できるようなものがあるといいと思っています。合わせて、社会教育主事も、どのような仕事か存じ上げなかったのが、社会教育主事又は社会教育士さんが、各市町にいるところといないところの調査が出ており、どのように活動をされているのか、活躍されているのか、もう少しアピールする場があれば、理解していただいて、やってみようかな、協力してみようかなという思いになっていただけるのではないかと思います。

○委員長

そのほか、いかがでしょうか。

○委員

子供の数が減ってきていて、今まで皆さんのお話を伺っていて、PTAとか子供会とか、だんだん脱退する傾向にあるというお話でした。静岡新聞では、今、自治会からも脱退する方も出てきて、連載で読ませていただいている状況です。本当に個人の思いで活動していて、なかなか横につながっていきにくい時代に、昔から比べるとなってきたと肌で感じています。先程、小学校のときに地域の大人と何かつながりを持っている子たちだと、やがてそういった場に出やすくなるし、もしかすると、その子たちが、将来地域リーダーになってくれるかもしれないというお話、すごくいいなと思って伺わせていただきました。ですが、私は今、ゲームとかインターネット、スマホとの子供との関わりについて活動しているんですけど、子供の遊びがゲーム主体になってきて、なかなか地域に出てこなくなってしまう現状もあります。つい最近、小学生低学年と幼稚園生と乳児を持っているお父さんとお話する機会があったのですが、親も自営で仕事を両親ともやっているの、子供を安全に育てるためにというか、外に出て行って、目が届かないのが怖いから、家でゲームをしててくれると安心だというわけです。平日だと2時間、休日だと4時間はゲームをやっているというお話を当たり前のようにしていく中で、地域とのつながりを持っていくが難しいだろうと感じました。現状、そうだから仕方ないと諦めるわけにはいかなくて、皆さんの話を伺っていく中で、やはり親世代です。子供自身が地域とつながりたいと自主的に言うわけではなくて、そういうところに連れていく親世代へのアピールがすごく大事なのだらうと思っています。委員がおっしゃったように、なかなか募集をかけても、教育の当事者である世代は、仕事も忙しいし、家事も忙しくて、なかなか出てこないところをいかに引っ張り出してつなげていくか、先ほどおっしゃった社会教育士だと、プロの力がそこで発揮されるのであれば、プロが真ん中にいて運営していけば、力強く広まっていくのではないかというお話もあったので、そこを厚くしていくのが本分かと。なかなか出てきにくい世代に、声を掛けて引っ張り出せる力のあるプロを育成していけば、全てに派生していくのだらうと感じました。

○委員長

最近、社会教育主事講習を受けて、こういう人材が必要なのだらうなというか、資質というか。それで話してもらっていいですか。

○委員

さっき、点と点をつなぐ人の話をしたんですけれど、それに加えて、巻き込む力がある人は必要だなど思っていて。楽しいよという力のある人。いつの間にか巻き込まれて、それに楽しいから来てしまう。大人もそうだし、子供だけでもそうだし、楽しいから行ってくるという場。あと、お金をかけずにボランティアをとというのは、私も最初、コーディネーターをやっているときにちょっと失敗をしてしまって、ボランティアと言い過ぎてしまって、地域の方に学校の体のいいボランティアを集めてるだけだろう、金のかからないボランティアを集めてるだけなのだろうとすごくお叱りを受けたことがあります。来てくれる人が、自然とそこに居場所があったりとか、必要とされていたりというものを実感として持ってくれると、来てと言わなくても来てくれるようになるし、そこが自分の居場所だと思って、自分が行くと、誰かに必要とされて。子供でもいいし、先生でもいいし、地域のほかの人でもいいし。私は、たまたま学校という場所を使ってやっているだけですけれど、そこに行ったら認めてもらえるとか、必要としてくれるとか。ボランティアに行こうと思って、来てくれる人は2割ぐらいしか、全体の中にいなくて。ほとんどの人が、そこに自分の居場所があるから行く。必要とされていて、認めてもらえているから、たまたまそれが学校という場所で、学校に来てくれているだけなので。その仕掛けづくりが上手な人とか、巻き込む力がある人がいると、違うと思いました。

あとは、今回、社会教育主事講習を受けて個人的にすごく楽しくて、最終日、明日から仕事に行きたくないと、ずっと言っていたんです。今までは、肌感とかそういったものでずっとやってきて、そこに計画があるとか施策があるところの中で、付加価値が付いてきたなどすごく思っていて。だから、これって価値のある活動と堂々と言えるようになったところがすごく、今回受けてみて、大きな成果だったなと思いました。

一方で、私は趣味で取りに行ったので、欠勤でもいいから行かせてくださいって言って行ったので、来月は社保とかいろんな手当の部分払ってくださいって会社から言われるのだろうなと思っています。その部分で、社会教育士を取りたい一般の人がいるならば、何かの事業とくっつけて、そこに補助金をつけてあげてくれないか。私みたいに、自分でお金をかけて行っても全然構わないと思うんですけれど、そこに時間とか往復の交通費とか参考書代となったときに、多少でもハードルを下げたあげられたら、もう少し間口が広がるのではないかと思います。それを帰りに、いろんな市町の行政職員と、そういう1人か2人が社会教育士を取りたいのだったら、町とか市が補助するよという事業を立ち上げてもいいんじゃないかと、いろんな市町の行政職員と話をしていまし

た。そういうのがあったらうれしいなと思いました。

○事務局

受けてみて、気持ちが変わって積極的になったというタイプだと思います。受講中、一緒にいろいろと話をすることも行政職員で、何で来たんですかと聞くと、業務の延長ですと。本当にこの知識を活用して仕事をしたいとか、地域とつながりたいとか、コーディネーターをやりたいとか、社会教育士を名乗りたいと前面に出される方とはちょっと違うタイプの方がいて。いろんな方とつながる仕事をしたいですが、行政の方は、やはり仕事内容が違うとか。現場で、実際に子供たちや大人をつなぐとか、地域と親をつなぐとか、現場でやってる方がこういう研修や講習を受けて、意欲と知識を得て戻っていく形がいいなと思いました。

社会教育士は称号なので、これでお金をもらえたり、それで働くことできないと思うので、名乗ることはできても、結局、それが仕事につながっていかないのがちょっともどかしくて。研修を受けて、これ、何に使えるのだろうか。これを受けて、どうやって力を発揮できるのだろうか、そればかり考えています。意欲だけは出てきて、何かしたいなと思うので、教育現場に戻ったら、地域とつながりたいと思いました。人材としては、社会教育士として現場で働く方をどれだけ増やせるかということが必要だなと思っていました。

○委員

今、皆さんのお話を聞いて、横軸に意欲が低い、高い、縦軸に知識がある、ない、と分けると、意欲の低いところから、意欲の高いところへ移っていく仕掛けとか、意欲があるけど、まだ知識がない人をどうするかとか、知識はあるけど、まだ意欲が十分でない人たち等を、どうやって横移動、縦移動していくかなどの議論もできそうだと感じました。仕掛けを考える人だったり、巻き込む人だったり、子供にやる気を与えるとか、効力感を与えるという役割などさまざまな取組も工程や段階があります。それらを全部兼ね備えてる人も、もちろんいるのですが、それぞれ自分の個性を生かして、社会教育に関われることをもう少し可視化してあげると、潜在的な人材を見つけることができるのかなと思います。自治会とかの問題もそうですけれど、全部背負わなきゃいけないとすると、それはできませんってなりますが、この部分を一部担っていく、そういう仕掛けを考えていく時代だとは思っているので、分解して考えていくのは必要だなとは思いました。また、つなげるとか、つながりの話ですけど、人の問題だけではなくて、その意欲を機会につなげていくこと、例えば、何かやりたいっていう子供を機会につなげていく仕掛けがあれば、人がなくてもつないでい

くことができるのだらうと思います。つまり、つなげるのは、人ばかりじゃなくて、何をつなげるのか、あるいはどうつなげるのかといったときの議論が、今後、またできるかなと思いました。

○委員

皆さんの発表を聞いていて、つなぐとか巻き込むのは、これは行政マンだけではなく、民間企業でもどこでも必要な能力だと思います。若い人の中にはまだ気づいてない人もいるのでは。能力だけでなく、その楽しさに気づいてない人もいるのかもしれない。例えば、学校の先生になるには、教育実習をやりますけれども、学生のうちに、若いうちに社会教育実習みたいな機会をセットしてあげて、社会教育施設だとかそういう講座で体験してみるような、そういうものをセットしてあげると、その人材の発掘というか、その人のためにも、社会のためにもなるのではないかと。その人が、行政マンにならなくても、就活で、3月1日に公で解禁されますけれども、自分の売込みのところに、社会教育の実習をやりました。これを書くと、面接で聞いてくれて、社会教育主事というのは面接官も知らなかったけれど、どんなことをやるのですかって。社会教育主事という仕事があることがだんだん広がっていくと、社会教育主事、お金にならなくても、資格を持っているだけで、ちょっと誇りになるみたいな働きがいになると、それもまた社会のためになるのではないかなと思います。

○委員長

夢ですね。それは、いいですね。就職で書いたら、君はこんな社会教育士だった、実習をやっていると。そこまで社会教育が皆さんに浸透してると。

○委員

本当にリーダーシップも必要ですし、私がそこにプラスして必要なものとして、フォロワーシップもすごく大事ではないかと思っていて。巻き込みたい人がいたら、必ず巻き込まれてもいいよというフラットな気持ちで社会にいる人の存在も大事にすると、リーダーとフォロワーがうまく融合して、新しい社会教育的な活動が生まれるのじゃないかと思いました。先ほど、委員が、子供たちがその地域の活動に出ていくためには、保護者が出してあげることが大事だと言ってくれました。あと、年長者の集まりに対しても、年長者が集まって連携をする場はかなり行政が用意してくれてるけれど、そこに1歩踏み出す勇気があるかないかで、巻き込まれるのか、巻き込まれないか。自分の新しい可能性に気づくか、気づかないかに大きな差が出てしまうところがあります。

私も自分の仕事として、できたこと手帳クラブという名前ではあるんですが、週に1回、自分の行動を、オンラインで集まる20人ぐらいの会を主催しています。その扉をくぐる勇気があるか、お試しだけでやめてしまうのかというところで。巻き込まれてみようというムーブメントは、どうやったらつくれるのかというところも合わせて考えると、リーダーに対してフォロワーがついて、お互いのニーズに合った小さなコミュニティがいろんなところで生まれることによって、よりよい社会教育。私たちは、社会教育って名前をつけて呼びますけれど、社会教育とは気づかない間に、自分の居心地のいい場で、自分らしく生きられるようなことが自然と実現しているのが、恐らくここにいる人たちが、こうだったらいいなと思い描いている目標、ゴールではないかという気もします。その辺りをいかに啓発できるか、注視したらいいのではないかなと思いました。

○委員長

つなげていけるような方が、今日、皆さんの御意見で多かったと感じました。それだけではないですけれど。私のほうで思うのは、常識的なところがあるというか、法的根拠をしっかりと認識して、この活動に当たるところはベースとしてないと、社会教育は何でもオーケーだけれど、この活動がこういう意味があってやっている。それをするためのモラルなり、そういうところをしっかりと認識できる方でないと、間違えると犯罪とかそういうところに悪用する人もいますので、その辺のフィルターがけというか、そういう学びの場ができればいいと思います。決して、自由意思を分別するためではないけれど、普通に社会教育を一生懸命やろうという人には常識はあると思います。皆さんの御意見、本当に参考になりました。今後、この議論をどういうふうに持っていくかについても、大いに参考にさせていただきたいと思います。

うちの息子がすごいお祭り好きなんだけれど、小さいときから地元のお祭りに出ていて、格好いいお兄さんたちを見て、勝手にお祭りに行っています。彼はだんだん、私たちは行かなくても、そのお兄さんたちに礼を尽くして。何とかさん、こんにちはと言って、つながっています。東京に行っても、地元の祭りだけは絶対。年末年始に帰ってこなくても、その地元の祭りは帰ってくるぐらいな勢いです。大人になってそれはできなかつたんだろうな。子供のときから見て、憧れてというのを、うちの子供もそうだったなってイメージをしながら聞かせてもらいました。あと、今までの仕組みではない、プロの方をつくっていく、ほんと大事なことと思います。後継者がいないのも、結局、社会も変わってしまって、ほとんどの方が働く状態なんです。だから、それに追われてる方ばかりの中で、地域活動を支える人はどうやって見つけていくのか。それは、ボランティアでいいのか。それは1つの仕事として任せる方がいて、それを支えるような仕組みにしたほうがいいのか。

その辺は、本当に社会構造が変わっているから、社会教育もそれに合った仕組みを、それはここで提案していいのではないかと思うのです。今までにとらわれず、新しい社会教育人材のあり方で、有償というか仕事としてやっている方を、行政だけ頼りではなくて、もっといろんな形で、こういう方をというのは提案していいのではないかなと感じています。

学校もそうですよね。先生しかいないけれど。前からよく言うんですけれど、病院は、患者さん1人を支えるために、医師も看護師さんも薬剤師さんも臨床検査技師、理学療法士さんとか、いろんなプロの方がその方の健康を支えています。学校は教員だけ。事務員の方もいるけど、プロで関わるのは、学校は教員免許だけですよね。その中、教科とか校種で分かれるけれど、みんな教える人なんですよね。教育の場面でもっと関わりたいなら、メンタルは専門で知っているとか。進路指導をすごい知っているとか。親子関係のところとか、今、スクールカウンセラーの方が入って、スクールソーシャルワーカーも入ってくれていますけれど、学校だってそういうふうには、いろんな方が関わるような場でもいいのかと私は思っています。学校はいろいろあるので、社会教育ではそんな仕組みが、社教主事頼みとか行政頼みではない、何か新しい形も考えたらいいのではないかと思っています。貴重な御意見、ありがとうございました。

今日は、もう1つ協議したいことがありまして。社会教育人材に関する調査、現状把握については調査を行いたいと思います。事務局からまず説明をしてもらいますけれど、調査を行うという方向性については、御了承よろしいでしょうか。現状を調査で知るのには大事かと思しますので、今期はそれをしてしたいと思います。

ということで、どんな調査にするかという案を、事務局から資料で説明をお願いします。

○事務局

まず、調査のほうは、資料にありますけれど、その前に資料3で、社会教育法を用意しました。社会教育主事、社会教育士という称号を持たれた方の確認をさせていただきたいということで、資料を載せさせていただきました。社会教育主事は、法令によって決められていて、必置となっておりますけれど、社会教育法施行令において、若干の猶予。町村によっては猶予がされていて、置かないこともできます。こういう流れの中で、裏面の資料4、8ページで、社会教育主事に関する調査を、令和5年5月に行ったものを載せさせていただきました。こちらは、全ての市町から回答がきているわけではなく、回答があった市町、26市町を載せさせていただいております。この中で、まず市町がどういうところに社会教育主事の役割に期待しているかというのが、上の棒グラフになります。これによると、3番の地域の学習課題やニーズを把握することに期待しているというのが

最も多かったです。続いて、その中でも、主事を発令している市町の回答が12市町あったものですから、その12市町の現状で、社会教育主事として行っている業務はどんなものが重要だと思いますか。これは、主事の方に回答を求めている、10番が最も多かったです。10番は、学校教育と社会教育の連携を推進するところに重要さを感じている。このような意識差があることを御理解いただき、現状を知った上で、先ほど委員長からもありましたけれど、資料5の9ページにあります社会教育人材の現状に関する調査について、題名は仮ですが、案を示させていただきました。目的から順に並んでおりますけれど、今回、皆さんにお聞きしたいところは10ページと裏面の設問です。参考例を見ていただいて、どういうことを聞くべきか、どういうことを現状把握したいかの中身を、いろんな御意見いただいて、それを基にこのアンケートの調査の素案を作っていきたいと考えております。

ですので、1度、資料を見ていただいて、御意見等をいただければと思います。もし、お時間がなければ持ち帰っていただいて、またメール等でもいいかと思っておりますけれども。まず、この部分について、よろしく願いいたします。

○委員長

対象は、これでほぼ決まりですよ。

○事務局

はい。

○委員長

今、あったように、10ページのどういう設問にするかで、大体のことは調査ポイントとして決めてありますが、聞き方、回答形式はまだ案の段階となっています。今日は時間がないので、グループフォームで、オンラインで聞くという形ですけれど、皆さん御経験はあると思いますので、その形で聞かれた場合のことを想定して、質問案を。全てではなくていいので、これは聞いてみたいという案がありましたら、事務局に御提案いただければと思います。

それで、3月28日にワーキングをやります。委員長、副委員長、ワーキンググループの委員、3人で。もしそこまでに、こういうのを聞きたいという案をお出しいただければ、それを参考にアンケート案を作りたいと思います。年度末のお忙しいところで恐縮ですが、何か案があればお出しいただければと思います。この調査をするのは7月、8月ですものね。

○事務局

その予定になっています。

○委員長

4月の段階で、こんな感じというのを出したいと思っていますので、お考えあったら。今日の協議も踏まえて、これは聞いたほうがいいのかというアイデアがありましたら、お聞かせください。

○委員

今、ここの設問3項で設問3・4・5だと、どんな人材が必要ですかとか、感じていますかということ、ここにあるものは、結構、未来に向かってどういう思いがあるかということが見られます。これからどうしたいかを知ること大事ですけど、現状がどうかということ、しっかり把握しておいたほうが良いと思います。そこは、皆さん、発問を考えられるとしたら、現状のことでどういうことが知りたいのか、将来のことでどういうことが知りたいかというポイントで質問項目を考えていただくと、回答するほうもしやすいし、集計したときに、方向性も見出しやすいのかと思いました。

○委員長

恐らく、設問3と4は現状把握のためだと思います。困り感みたいなのが、ここに出るのではないかという感じでしたよね。

○事務局

調査ポイント3つのところにありますように、人材について、現状、課題、最後に、課題ばかりではなく、3番は今後のビジョン。ボリューム的には現状を3分の2は聞きたい。最後に1つ、2つは、今後についてのことを少し聞いてみたいという流れで考えてはおります。

○委員長

現状把握重視で質問は考えていただければと思います。

○委員

ついでですけれど、意外と社会教育委員さんですと、現状、委員として委員会に出ることが仕事になっていて、地域の課題とかそういうところの認識が薄い方もいらっしゃる可能性もあるので、答えやすい質問がいいのかと思いました。

○委員長

参考にします。よろしいでしょうか。ここの協議はもうちょっと時間をかけて行いたかったんですけど、時間が来てしまいましたので、本日はここまでということで御了承いただければと思います。今日もいろいろ忌憚のない御意見のほうをありがとうございました。

それでは、事務局から連絡事項をお願いします。

○事務局

連絡事項、2つございます。

会議録について、第1回でもお願いしましたけれど、本日から3週間ほどたちましたら、メールで皆様にお送りさせていただきますので、議事録の修正、確認をよろしく願いいたします。

続いて、次回の話になりますけれど、次回は4月24日の木曜日。場所については、今日の隣にあります特別第1会議室になりますので、ここに来るのは分かりやすいかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

追加で、先ほど委員長からありましたけれど、3月28日にワーキンググループをやらせていただきます。それまでに、メールにて今の御意見、アンケートの調査の案を皆さんからお寄せいただきたいと思っております。こちらから1度いついつまで、このような形でというメールをいたしますので、御返信をよろしく願いいたします。

○委員長

以上をもちまして、第2回静岡県社会教育委員会を閉会いたします。

本日もありがとうございました。